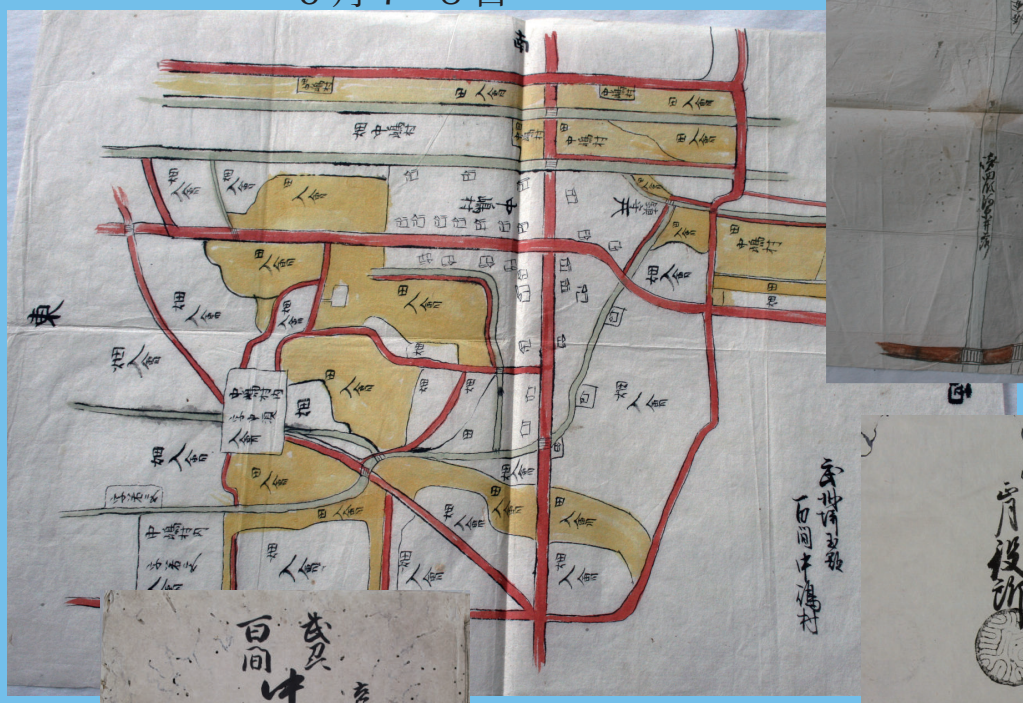
平成 26 年度企画展

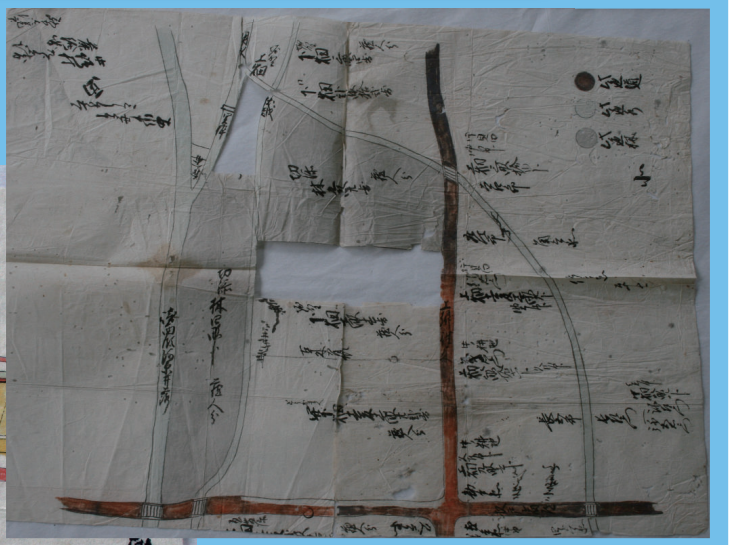
江戸時代の百間中島村

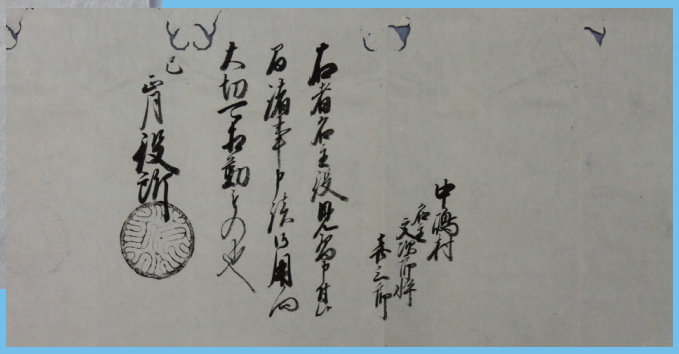
～道仏・若宮・中須～

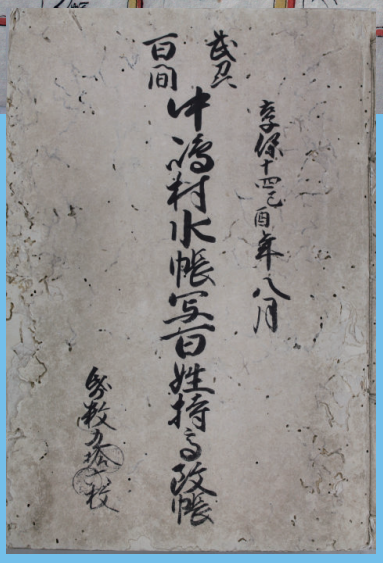
期間　平成 27 年 3 月 14 日（土）
～
平成 27 年 5 月 10 日（日）

休館日　3 月 16・23・30 日
4 月 6・13・20・27・30 日
5 月 7・8 日









宮代町郷土資料館

345-0817

埼玉県南埼玉郡宮代町字西原 289

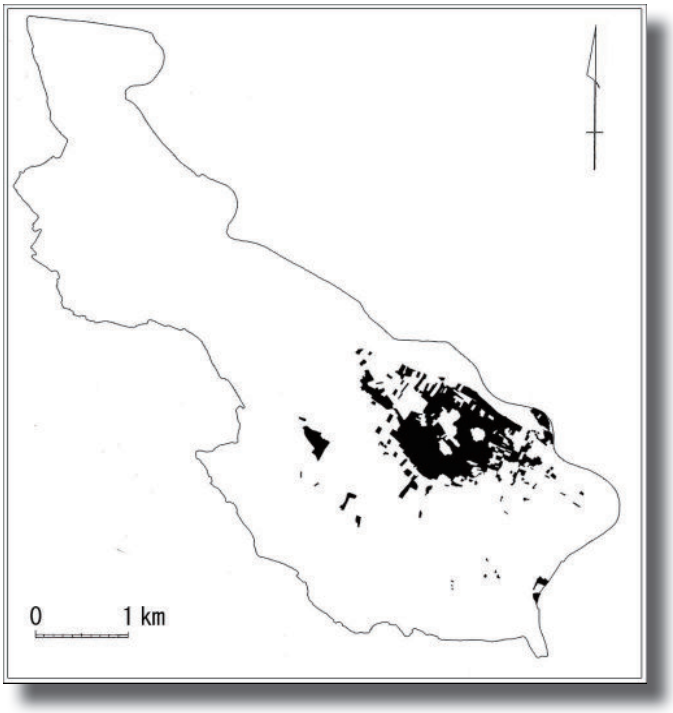
TEL　0480-34-8882　FAX0480-32-5601

開催にあたって

宮代町郷土資料館では、平成2年度から15年度にかけて宮代町史の編さん事業を実施し、宮代町の歴史を語る上で重要な古文書を発見してきました。須賀村戸田家文書や百間中島村岩崎家文書、百間村折原家文書、東粂原村岡安家文書などの江戸時代の名主家文書です。そして、宮代町の歴史が少しずつ解明されてきました。

今回の企画展はこれらの古文書の中から百間中島村にスポットをあて、江戸時代の百間中島村について詳しく解説します。なお、江戸時代の百間中島村は現在の行政区では道仏、若宮、中須にあたります。この他、川端の一部や山崎の一部も百間中島村でした。

展示内容は、江戸時代から明治時代の百間中島村内の様子や寺院、神社、村役人の変遷などで当時の百間中島村の状況が分かるような古文書や絵図などを展示いたしました。併せて、江戸時代以前の百間中島村についても触れ、縄文土器や土師器などの遺跡から出土した遺物も一部展示しています。是非ご覧下さい。



宮代町域における
百間中島村の範囲

平成27年3月14日
宮代町郷土資料館

凡例

1．本書は平成27年3月14日から5月10日にかけて開催する宮代町郷土資料館企画展「江戸時代の百間中島村～道仏・若宮・中須～」の展示図録です。

2．本書並びに展示した写真は、当館学芸員河井伸一が撮影しました。

3．本展示会の企画及び執筆・編集は河井伸一が担当しました。展示は資料館職員等が協力して行いました。

4．資料提供・協力者等（順不同・敬称略）

岩崎光子、青木秀雄、實松幸男、榎本博、田中和之

江戸時代以前の百間中島村

百間中島村は江戸時代中期の元禄 8 年（1695）に百間村から分離して成立しました。それ以前は正式な村名ではなく、地域の名称として「道仏村」と呼ばれていたようです。この他、若宮や中須にも江戸時代初期の元和 5 年（1619）には集落が出来ていたことが古文書で推察できます。

しかし、戦国時代以前は若宮や中須からは遺跡や遺物が発見されていませんので、江戸時代初期に人々が住み始めたのでしょう。一方、道仏は縄文時代早期（約 8,000 年前）から晩期（約 3,000 年前）の土器や石器、竪穴式住居などの集落が発見されていますので古い集落であったことが分かります。

縄文時代の道仏

道仏で遺跡が確認されているのは道仏北遺跡、道仏遺跡、道仏上遺跡の 3 遺跡です。道仏遺跡からは縄文時代早期（約 7,000 年前）の住居跡や炉穴と呼ばれる屋外炉が検出されています。道仏上遺跡からは住居跡は検出されていませんが、前期（約 5,500 年前）から後期（約 3,700 年前）の土器や石器が僅かに出土しています。

道仏北遺跡では谷を挟み 2 つに遺跡が分かれますが、南側の遺跡では 2 列状に 24 軒、北側の遺跡からが中央広場を中心に J 字状に 18 軒の住居跡が発掘され、縄文時代の集落の実態が明らかとなりました。

道仏北遺跡（平成 20 年度）から出土した石鏃

道仏北遺跡（平成 20 年度）から出土した縄文土器

古墳時代の道仏

道仏で古墳時代の遺跡が確認されているのは道仏北遺跡と道仏遺跡です。道仏北遺跡では古墳時代中期（約 1,550 年前）の住居跡が 2 軒発掘され、宮代町唯一の勾玉も発見されています。一方、道仏遺跡からは古墳時代中期（約 1,550 年前）から後期（約 1,450 年前）の住居跡が 148 軒発掘されており、道仏地区南端の島状の台地に大集落が展開していたと推定されます。近隣市町でもこれほどの大集落は確認されていません。

道仏遺跡の南側対岸約 700 m地点に所在するのが姫宮神社古墳です。姫宮神社古墳は道仏集落（遺跡）のムラ長が葬られた古墳であると推定されます。道仏遺跡周辺一帯を支配していたのでしょう。

道仏遺跡調査地点（網掛けは調査範囲）

道仏遺跡航空写真（平成 26 年度）

道仏遺跡出土遺物（須恵器・土師器）

道仏遺跡出土遺物（土製品・石製品）

石製模造品とは、滑石製のもので鏡・剣・勾玉を模したものです。古代豪族のお祀りで使用されました。古代豪族は、この 3 種類の道具を珍重しました。天皇家も古代豪族ですので、この三種類の道具が現在に伝わります。三種の神器です。

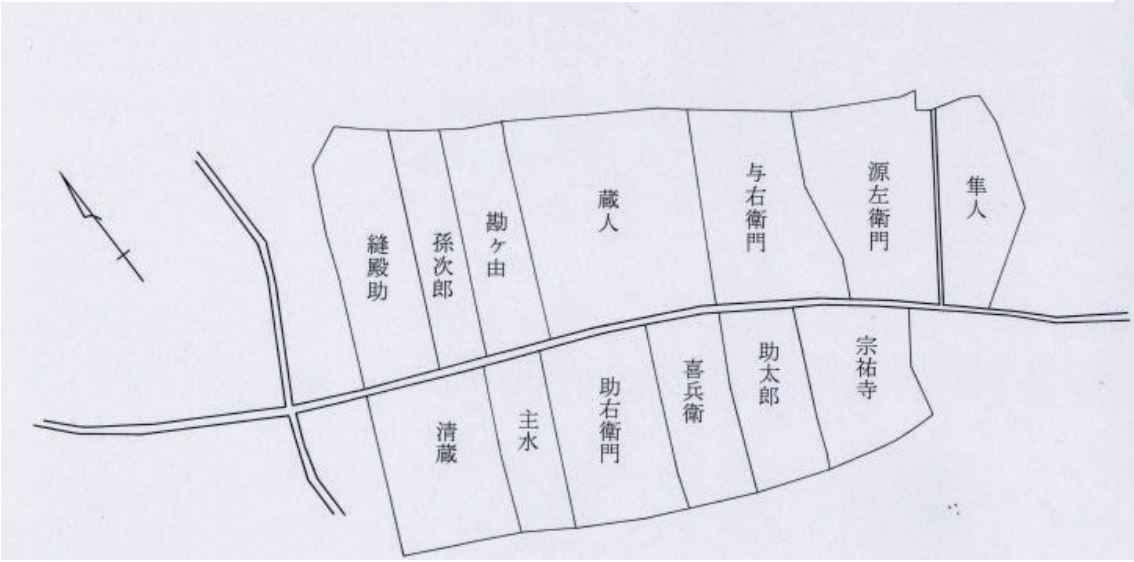
戦国時代から安土桃山時代の道仏

道仏遺跡や道仏上遺跡で僅かに戦国時代の遺物が発掘されていますが、現在の道仏集落の形成は、伝説では島村近江入道道明が近畿地方から百間へ落ち延びてからと言われています。道明は現在の字中（西）に住まいしました。元百間村長島村繁や英文学者島村盛助の先祖に当たります。道明は天正 12 年（1584）に亡くなりました。道明の次男が島村出羽宗明で、道仏の地に分家して、天正 18 年（1590）に「道仏村」を開発したと『新編武蔵国風土記稿』に記されています。また、医王院の開基も宗明であるとされています。宗明の子孫の蔵人や九郎兵衛、平兵衛、新五左衛門、幾五郎、周蔵は一時期を除き文化 8 年（1811）頃まで代々百間中島村の名主役を勤めました。

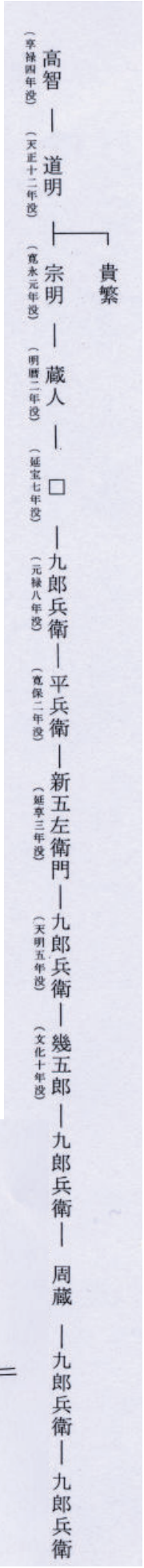
江戸時代初期の百間中島村

百間中島村は江戸時代初期には百間村の一部でした。地域の名称で「道仏村」と呼ばれることもありました。元和 5 年（1619）の「百間村検地帳」の書き抜きである「百間中島村水帳写百姓持高改帳」には道仏だけでなく、若宮や中須にも百姓屋敷があったことが分かります。利根川を東側へ移動させることで、新たに多くの低地で新田開発が可能となり、若宮や中須などの集落が出来たのでしょう。

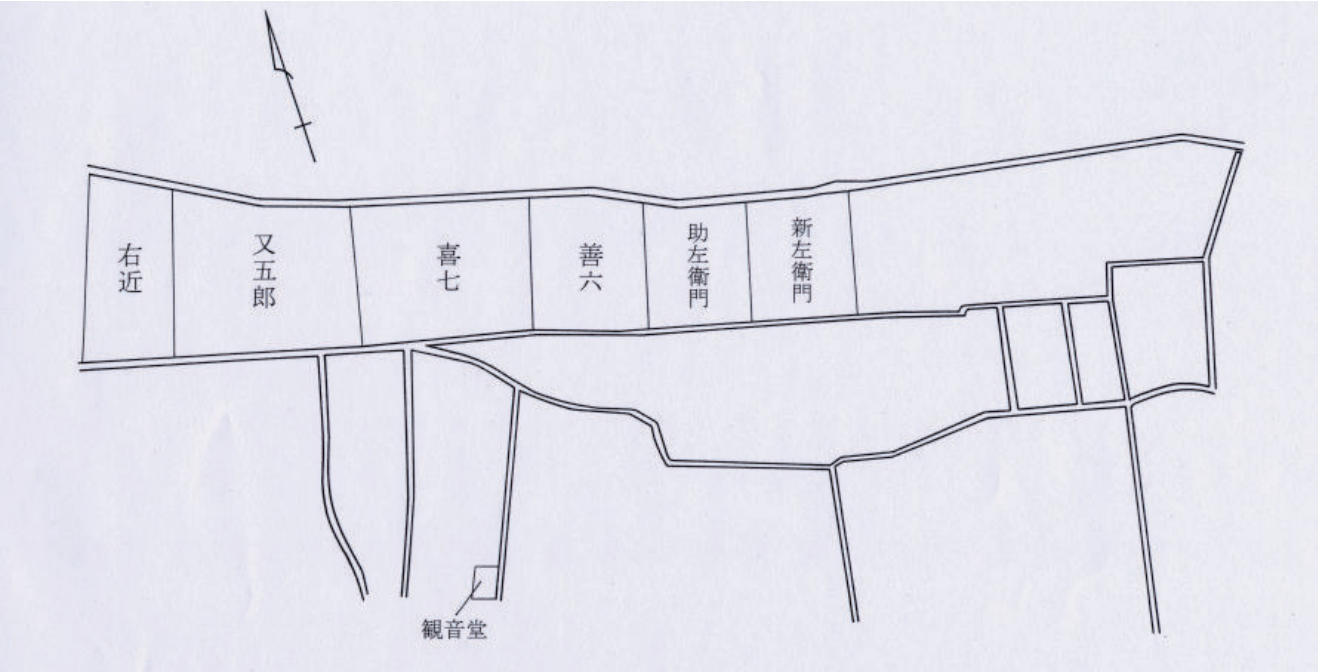
この当時、道仏には 12 軒、若宮には 6 軒、中須には 4 軒の百姓屋敷がありました。



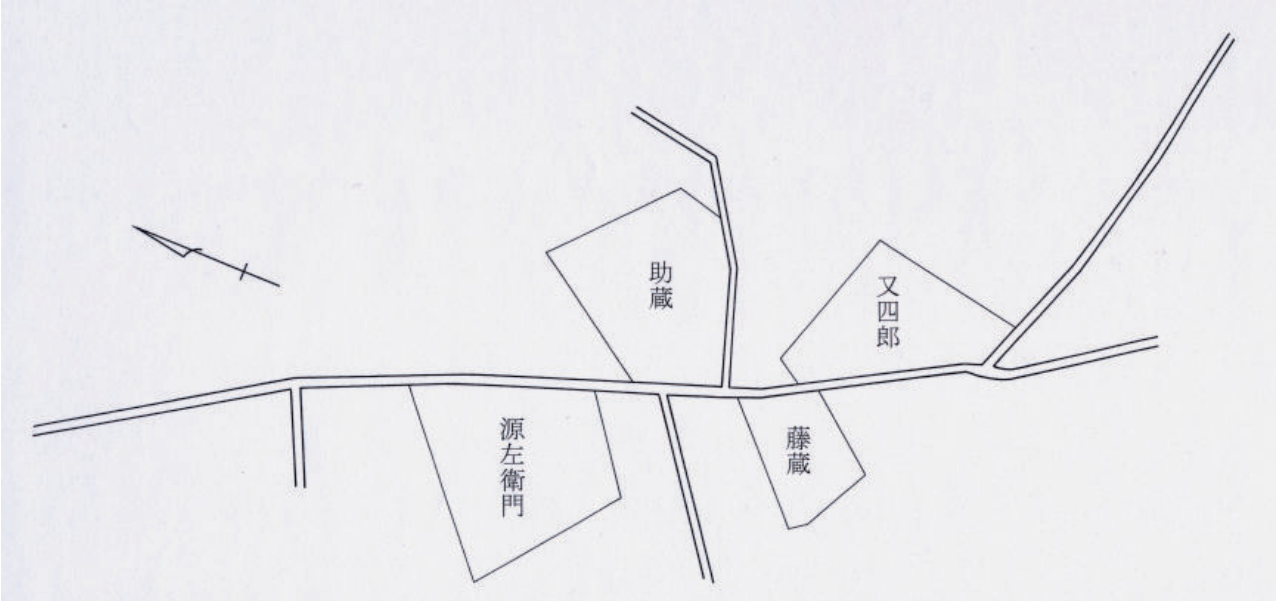
元和 5 年　道仏地区屋敷図



百間中島村名主　島村家系図



元和５年　若宮地区屋敷図



元和５年　中須地区屋敷図

百間中島村について

江戸時代の百間中島村は、現在の行政区で言うと道仏、若宮、中須、川端の一部、山崎の一部などがその範囲でした。元和５年（1619）では戸数 23 軒、文政６年（1823）では戸数 78 軒、文政 12 年（1829）では戸数 80 軒、人口 430 人、弘化２年（1845）頃では戸数 75 軒、明治７年（1874）では戸数 80 軒、人口 509 人、明治９年では戸数 83 軒、人口 510 人、明治 22 年には人口 491 人、昭和 45 年（1970）では人口 1,376 人、平成 27 年（2015）では戸数 1,294 軒、人口 3,159 人を数えます。

元禄８年（1695）、百間村から百間東村、百間西村（中村）と共に百間中島村は分離しました。そして、正式な村となりました。享保９年（1724）には逆井百間中島村新田が、享保 14 年には笠原沼百間中島村新田が開発されました。新田は幕府直轄

地の天領でしたが、百間中島村は寛永元年（1624）から幕末まで旗本池田氏の領地でした。

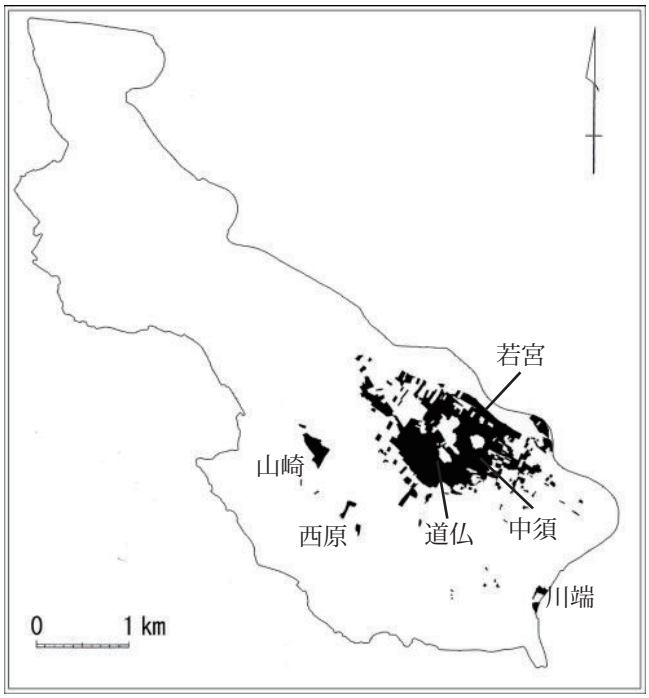
百間中島村は明治 8 年（1875）に持添新田（住民のいない新田村）である笠原沼百間中島村新田、逆井百間中島村新田を吸収し、明治 22 年に百間中村、百間東村、百間村、百間西原組、百間金谷原組、蓮谷村と合併し新たな百間村となりました。この時の百間村の人口は 2,908 人でした。昭和 30 年（1955）には須賀村と合併し、宮代町が誕生します。この時の宮代町の人口は 10,755 人でした。ちなみに現在の宮代町の人口は 33,392 人です。

百間中島村の飛び地

百間中島村は道仏・若宮・中須地区である程度まとまっていますが、川端や山崎、西原にも飛び地がありました。山崎の飛び地は野畑（雑木林や原野）などで民家は 1 軒のみです。川端の飛び地は中洲島とも言い、古利根川が東西に 2 本に分かれる中洲上に 2 軒の民家がありました。西原にも 2 軒の民家がありました。また、青林寺南側と東側は西原新屋敷という場所で、元和 5 年（1619）の検地にも含むことが出来ない特殊な場所であったようです。

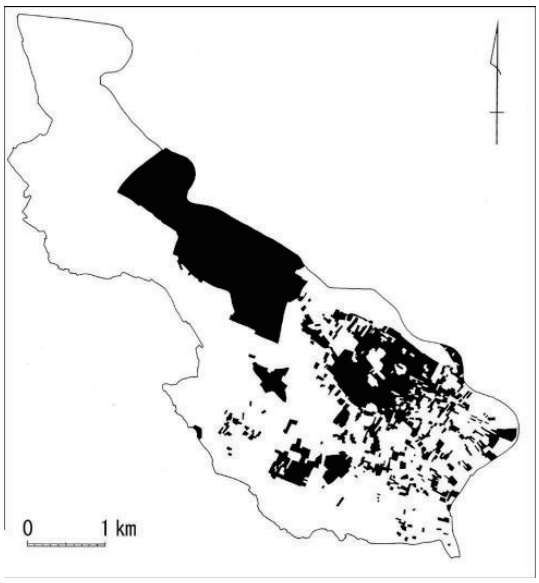
この他、逆井に逆井百間中島村新田、笠原に笠原沼百間中島村新田がありました。これらの新田は百間中島村が山崎に土地を持っていたため、隣接地として新田開発することが出来ました。また、逆井新田が開発された後、残っていた百間村、百間中島村、百間東村、蓮谷村入会の秣場（草地）も明和 8 年（1771）に開発され、百間四ヶ村請新田となりました。

宮代町内の新田分布図



宮代町内における百間中島村の範囲

百間中島村の領主



旗本池田氏の領地（須賀村は他領含む）

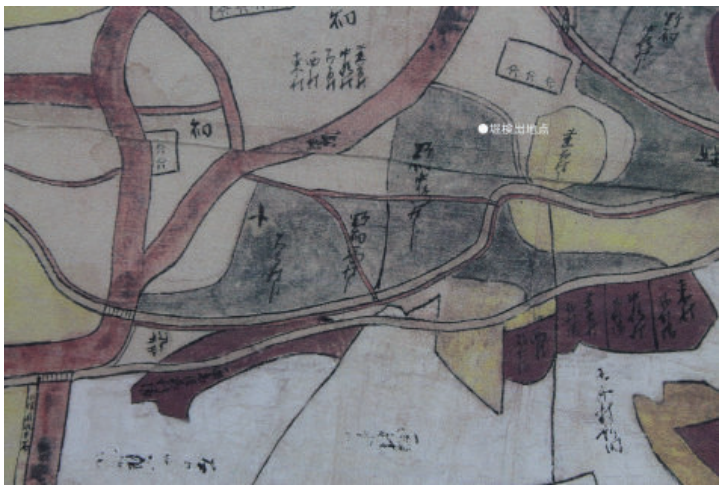
百間中島村は元々、百間村の一部で戦国時代は岩付城の後北条氏に属していたと推定されます。小田原北条氏が滅亡すると徳川家康が関東に入国し、文禄元年（1592）、百間郷 3,000 石が旗本服部与十郎政季に与えられました。その後、元和 5 年（1619）に政季の嫡子政信が静岡県の敷知郡（浜松市周辺）に移封され、天領となり検地が行われました。そして、寛永元年（1624）、百間郷（須賀村も含む）は 1,000 石が朽木民部稙綱に、1,000 石が旗本池田帯刀長賢、1,000 石が旗本永井豊前守直貞、200 石が岩槻藩阿倍備中守正次に領地が分割されました。この時、後の百間中島村は旗本池田氏の支配となりました。

元禄 8 年（1695）、正式に百間村から百間中島村は分離し、村となりました。その後、旗本池田氏の支配は幕末まで変わりませんでした。

山崎遺跡で発見された城館

平成 12 年 2 月、字山崎の山崎遺跡で幅 4 m、深さ 180 ㎝もあるＬ字状の堀が発掘されました。これほど大型の堀が発見されることは珍しく、覆土から多量の火山灰が検出されました。この火山灰は分析の結果、天明 3 年（1783）の浅間山の火山灰でした。

古文書や絵図の調査では、この場所は江戸時代後期には百間中島村の範囲で地目は「野畑」でした。これらの事から、この堀は江戸時代中期以前の堀であり、相当な権力者の城館があったと考えられます。当時の百間中島村の領主は旗本池田氏であったため、この城館は村支配を行う現地の役所でもあった旗本池田氏の陣屋と推定されます。宮代町には旗本服部氏の陣屋や旗本永井氏の陣屋もあったようですので、江戸時代前期の旗本は領地に陣屋を構えていたと推定されます。



堀検出地点（百間村絵図　部分）

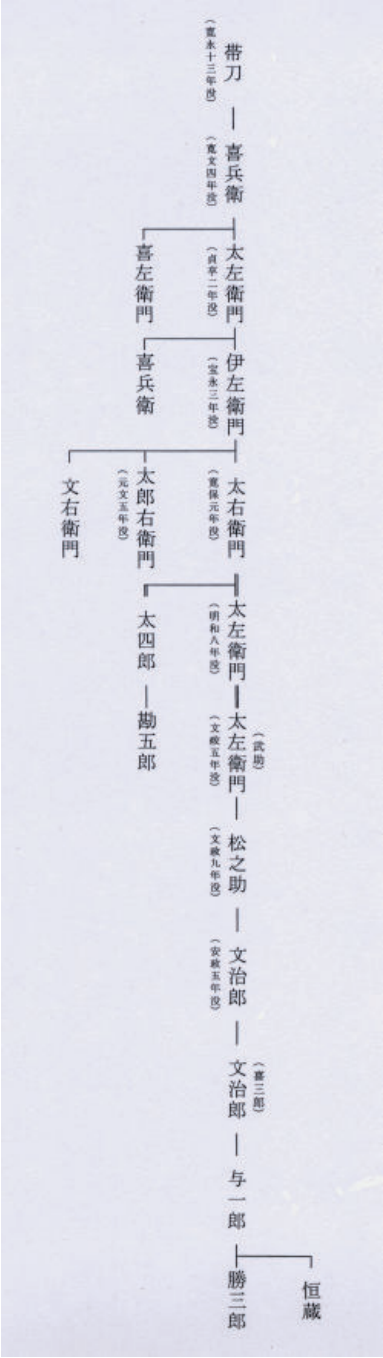
山崎遺跡から発掘された堀

山崎遺跡から発掘された堀

百間中島村の名主

村役人とは、一般的に名主・組頭・百姓代をいいます。名主は、現在の村長のような役職で、基本的には村や領主ごとに１名いました。百間中島村でも１名が確認できます。

百間中島村（分村以前も含む）の名主は、天正 18 年（1590）に「道仏村」を開発したと言われる島村出羽宗明が勤めたと推定されます。その後、蔵人、九郎兵衛、平兵衛など５代に渡り名主を引き継ぎました。しかし、元禄 14 年（1701）、名主平兵衛は領主である旗本池田長清の勘気にふれ土地なども没収・追放されました。そして、石塚次郎左衛門が名主となりました。その後、宝永３年（1706）平兵衛は許されましたが、相続人がいないため、親戚の百間中村の名主島村新右衛門（英文学者島村盛助の先祖）の子の新五左衛門を養子にもらいました。享保 14 年（1729）、石塚次郎左衛門は島村新五左衛門に名主役を譲りました。その後、九郎兵衛、幾五郎、九郎兵衛、周蔵と５代に渡り名主役を勤めましたが、周蔵が幼かったため、文化４年（1807）からは組頭が年番で名主代を勤めました。名主代を勤めたのは基本的には島村徳右衛門、岩崎松之助、深井九蔵の３名ですが、文政 10 年（1827）以降、島村沖右衛門や岩崎文次郎も確認できます。天保３年（1832）、岩崎文次郎が正式に名主となり、文次郎（喜三郎）、与一郎と３代に渡り名主役を勤めました。



百間中島村名主　岩崎家系図

百間中島村の組頭

組頭で最も古く確認できるのは享保元年（1716）の島村善兵衛と権左衛門です。次は享保 13 年の島村善兵衛、岩崎喜兵衛、秋谷又右衛門、深井市郎兵衛、島村沖右衛門、関根与兵衛です。その後、島村善兵衛と関根与兵衛、深井市郎兵衛は組頭職を辞めたようですが、秋谷又右衛門は寛保 3 年（1743）頃まで、岩崎喜兵衛、島村沖右衛門は宝暦 13 年（1763）頃まで組頭でした。関根与兵衛の子の源七は享保 15 年に組頭となり、宝暦 13 年まで確認できます。岩崎太右衛門も享保 15 年から宝暦 13 年まで組頭を勤めたようです。このように百間中島村では 5 人程の組頭がいました。

明和 7 年（1770）頃になると組頭は岩崎清次郎のみとなり、天明 2 年（1782）には深井九左衛門が組頭に加わりました。天明 5 年からは岩崎太右衛門の孫の太左衛門（武助）が組頭となり、名主の島村幾五郎の代理として名主代を勤めることもありました。天明 7 年には岩崎喜兵衛が組頭で名主代であることが確認できます。太左衛門は享和元年（1801）頃まで組頭のようです。太左衛門の子の松之助は文化 7 年（1810）に組頭で名主代でした。

文化 8 年には名主島村幾五郎の跡役として、孫の周蔵が名主となりますが、幼年であったため、組頭であった岩崎松之助と島村徳右衛門が年番で名主代を勤めました。その後、深井九蔵も加わりました。文政 10 年（1827）には、文政 8・9 年の名主代島村徳右衛門と文政 10 年の名主代島村沖右衛門とで争論が起こったことで、文政 11 年からは岩崎文次郎が組頭で名主代を勤めてからは、年番名主（名主代）は文次郎のみとなります。天保 3 年（1832）、文次郎は正式に名主となり、組頭は岩崎清次郎のみとなりました。

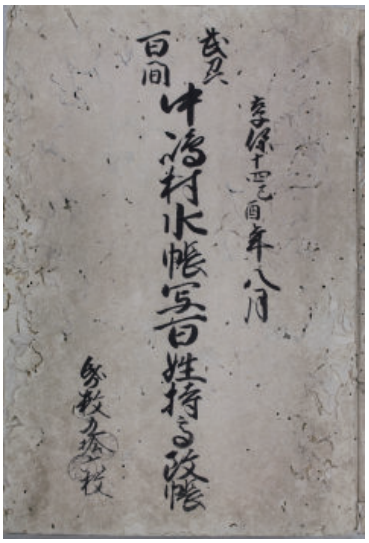
天保 9 年には深井治郎右衛門も組頭に加わりました。弘化 3 年には島村沖右衛門、岩崎吉左衛門も組頭として確認できます。9 月には名主文次郎の代理として吉左衛門が名主代を勤めていたようです。嘉永 2 年（1849）には岩崎吉左衛門、島村沖右衛門、関根庄右衛門、深井治郎右衛門が組頭でした。その後も、組頭 4 名体制が続いたようです。安政 4 年（1857）には名主の文次郎に代わり、富田家からの養子である喜三郎（後の文次郎）が名主見習いとなり、翌年改名し名主となりました。その後も、岩崎吉左衛門、島村沖右衛門、関根庄右衛門、深井治郎右衛門の 4 名が組頭でしたが、文久元年（1861）に文五郎が組頭見習として見られます。これは何れかの組頭衆の幼名と考えられます。その後、慶応元年（1866）には、この 4 名に川上又十郎が加わります。幕末まで組頭は、岩崎吉左衛門、島村沖右衛門、関根庄右衛門、深井治郎右衛門、川上又十郎の 5 名でした。

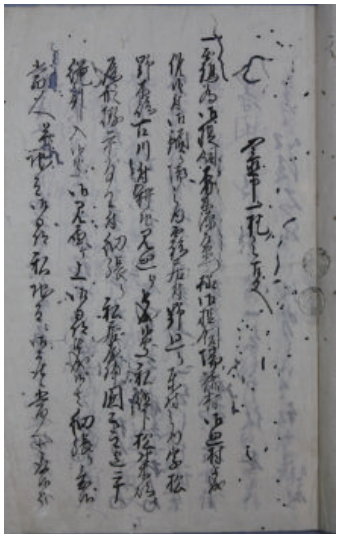
百間中島村の出来事

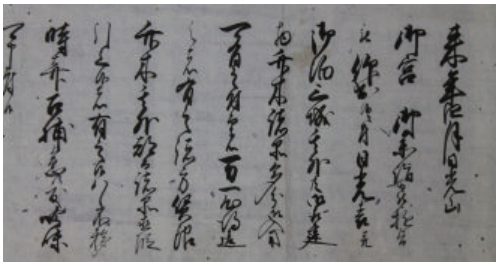
百間中島村では、領主（旗本池田氏）による名主（島村平兵衛）の追放や、用排水をめぐる水争い、稲荷神社や医王院に係る争論、御容赦金横領に係る不正疑惑、年番名主交代に係る金銭の争い、松ノ木島にいた鶴の不正な捕獲、稲荷神社の大きな破損、洪水での床上浸水、村人同士の口論、村人の駆け落ち、名主の養子相続、大地震での伏越の大きな破損、榛名山や妙義山への参詣、名主交代による文書の引継ぎ、名主の養妹の武家への嫁入り、元組頭の修験者への出家など多くの出来事があったようです。しかし、日常はもっと様々なことがあったのでしょう。古文書が残ると言うことは、何か問題があった時だけですので、これらのものが残ったのでしょう。

領主による名主の追放

百間中島村で最も大きな出来事は領主旗本池田長清による名主島村平兵衛の追放でしょう。元禄 14 年（1701）のことです。これにより、平兵衛の所有する屋敷は奥さん持ちとなり、田畑は後に名主となる石塚次郎左衛門の名主役職地（御用地）となり、子息もバラバラとなりました。5 年後の宝永 5 年（1706）に赦免されますが、跡取りがいないことから、親戚である百間西（中）村の名主島村新右衛門（英文学者島村盛助の祖先）の次男新五左衛門を養子としました。享保 14 年（1729）には次郎左衛門から新五左衛門に名主が変わり、島村家が名主に復帰しました。



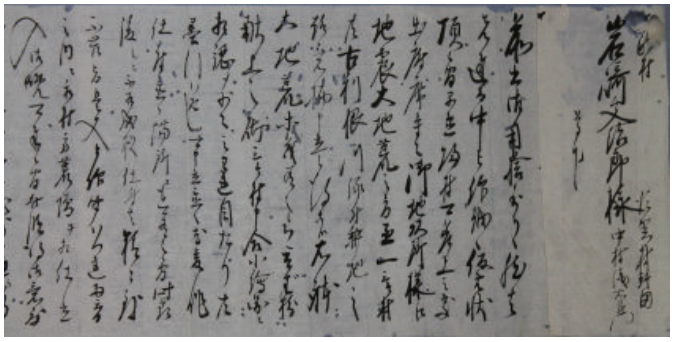


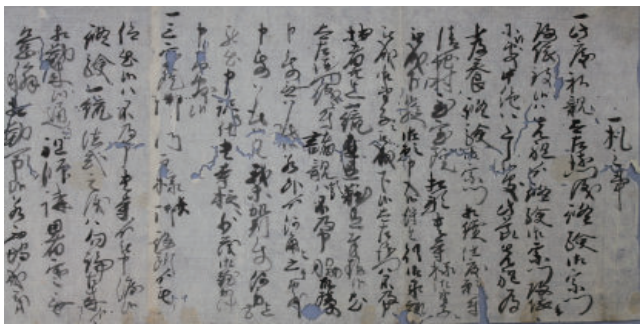


左上　百間村検地帳写名寄帳
中上　捉飼場内鶴仕掛詫状
右上　日光社参商品値上禁止状

左下　大地震地割墨引状
右下　太左衛門出家一件

（いずれも岩崎家文書）

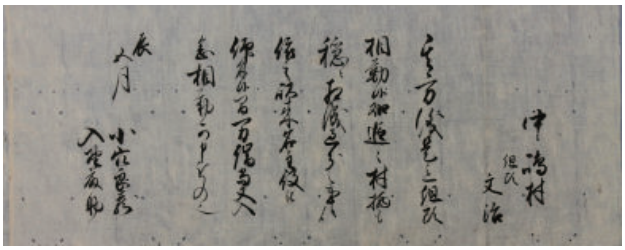




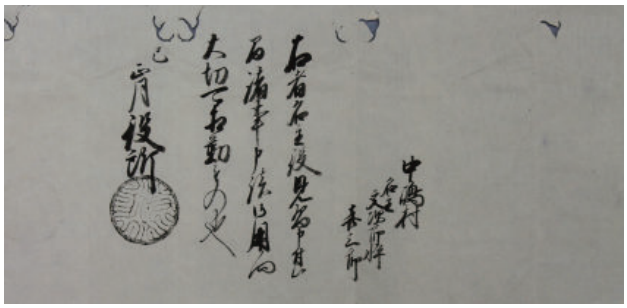
名主の交代

百間中島村で名主の交代として大きいものは、島村家から岩崎家への変更と言えましょう。それまで、元禄 14 年（1701）から享保 14 年（1729）を除き、島村出羽宗明、蔵人、□（不明）、九郎兵衛、平兵衛、新五左衛門、九郎兵衛、幾五郎、九郎兵衛、周蔵と 10 代に渡り、名主役を勤めてきましたが、文化 4 年（1807）、周蔵が幼かったことや、その父九郎兵衛の早世、祖父幾五郎の名主役の適性などから、名主は周蔵とするものの組頭島村徳右衛門と組頭岩崎松之助が年番で名主代を勤めることになりました。

その後、文政 11 年（1828）に岩崎松之助の子の文次郎が名主代になり、天保 3 年（1832）に文次郎が正式に名主役となって固定化され、それ以後、名主は岩崎家で世襲されることになりました。



文次郎名主仰付状（岩崎家文書）



喜三郎名主見習仰付状（岩崎家文書）

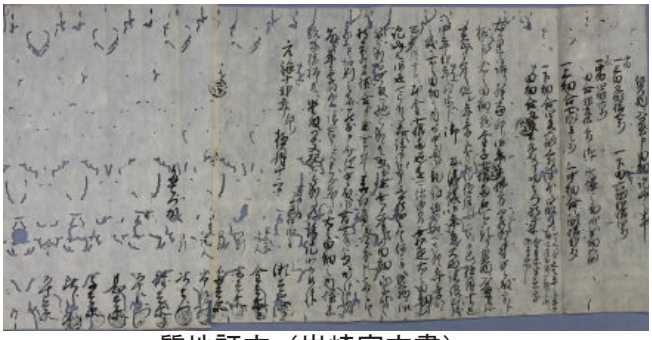
百間中島村の商い

文政 12 年（1829）の史料によると、百間中島村には 80 軒の家があり、その内 18 軒が農業の合間に商業や職人をしていたそうです。居酒屋は久次郎、安兵衛、髪結屋は勘次郎でした。他の宮代町内にあった村より商業を営んでいた人は少ない傾向と言えます。

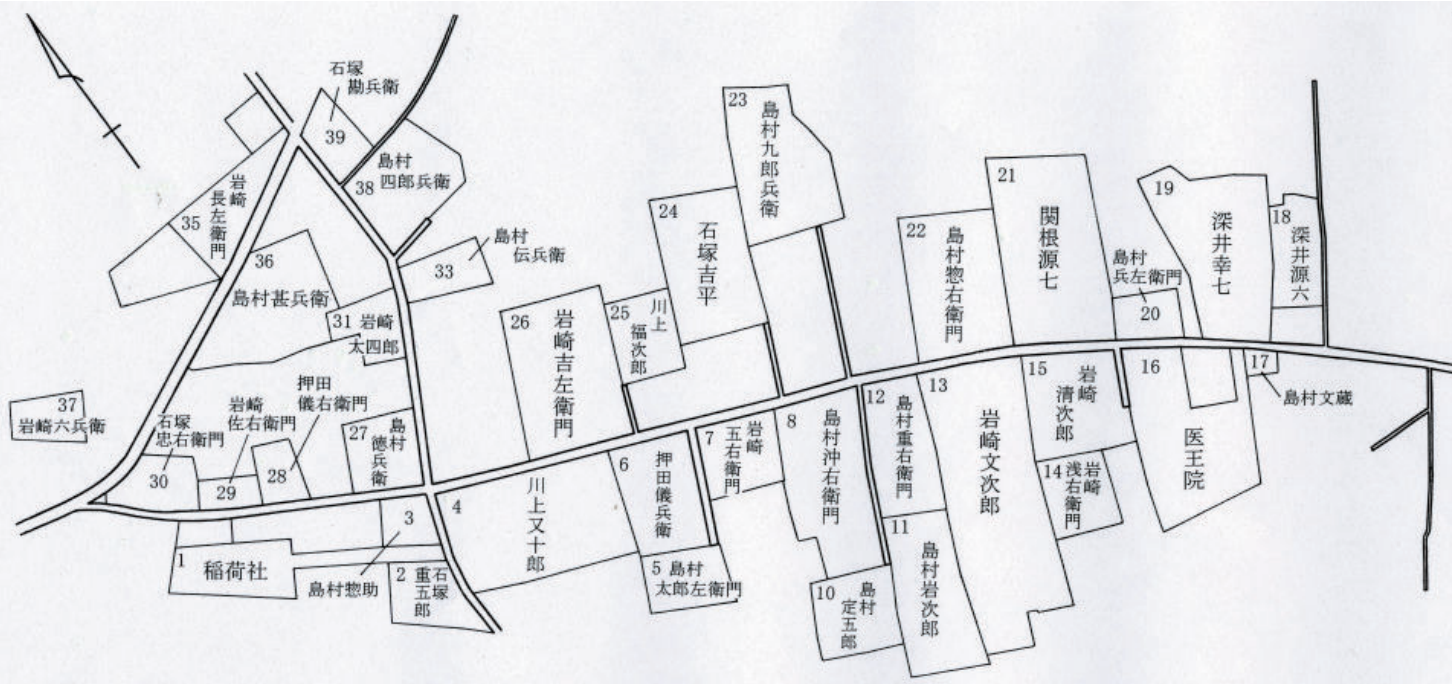
現在、コクヤ、ナワヤ、コメヤ、カジヤ、ヤネヤ、オチャヤ、カシヤ、ナベヤ、コウヤ、ソメヤなどの屋号の家が残っています。

中島村年貢諸向帳面品書控帳（岩崎家文書）

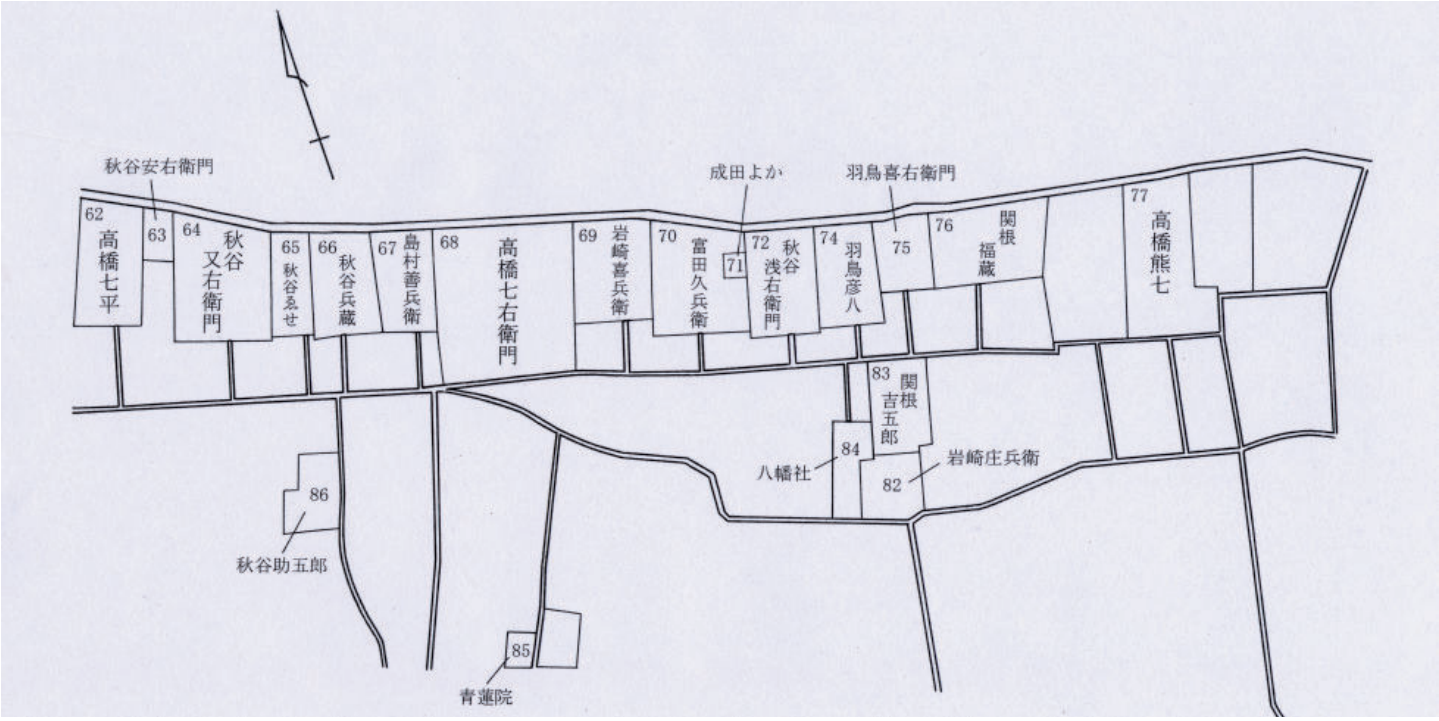
百間領中島村年貢割付状（岩崎家文書）



質地証文（岩崎家文書）

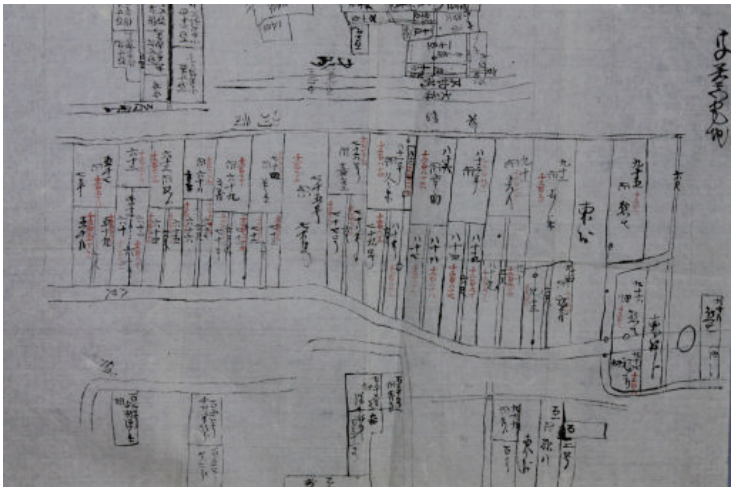


道仏地区屋敷図（明治 6 年）

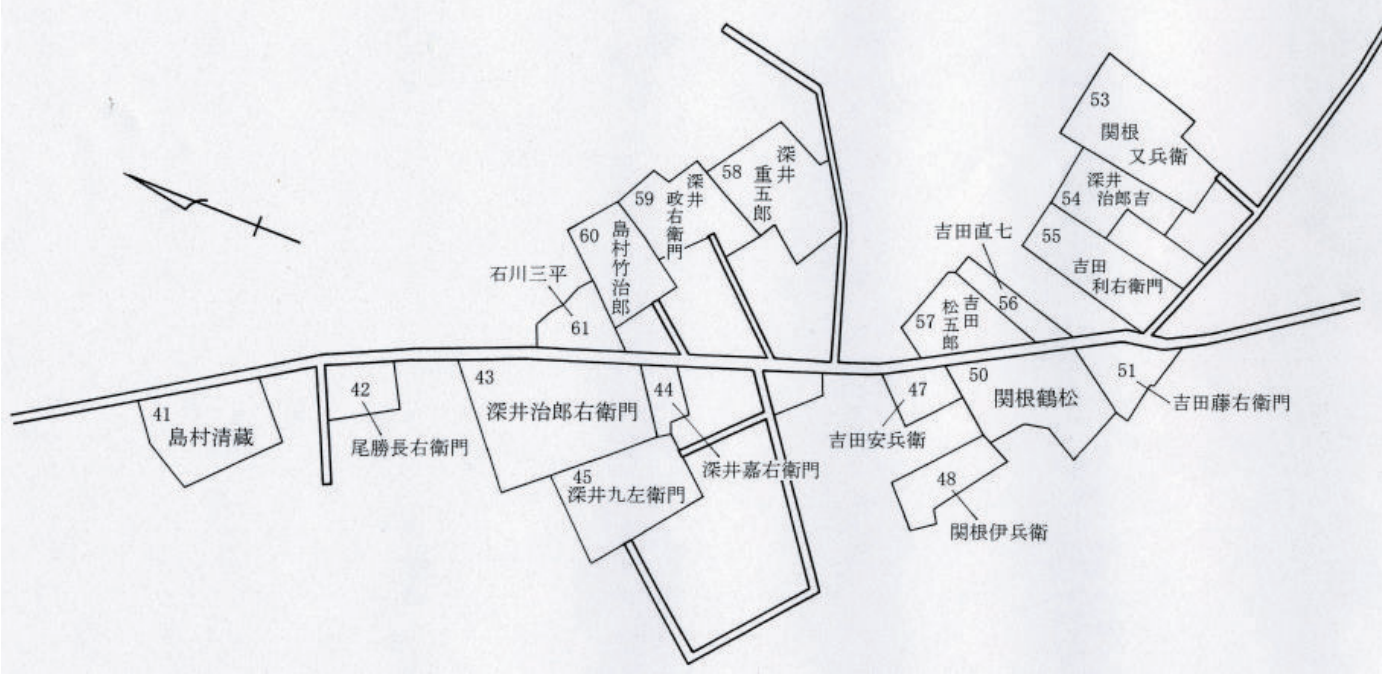


若宮地区屋敷図（明治 6 年）

百間中島村明細絵図（道仏）

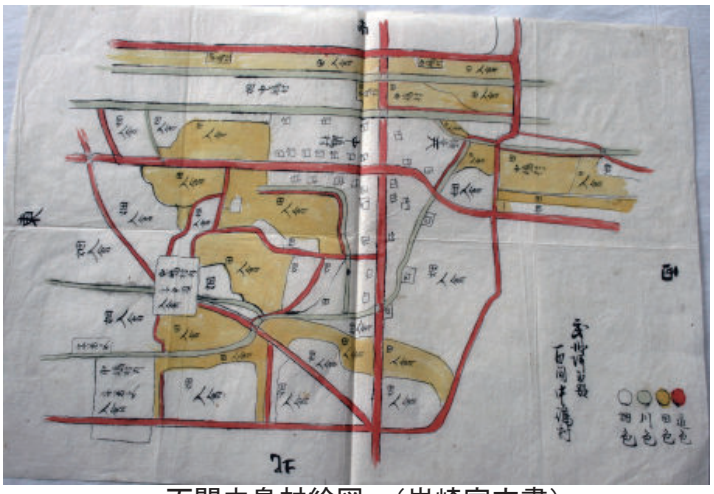


百間中島村明細絵図（若宮）



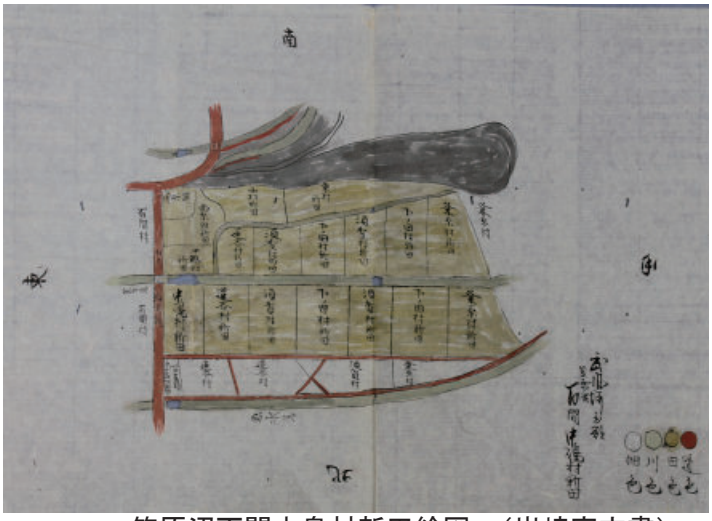
中須地区屋敷図（明治 6 年）

百間村絵図　（岩崎家文書）

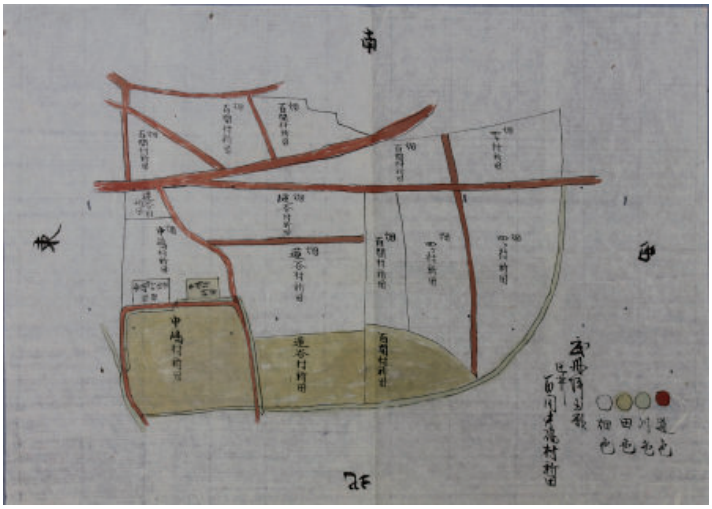


百間中島村絵図　（岩崎家文書）

百間村　新田絵図　（岩崎家文書）



笠原沼百間中島村新田絵図　（岩崎家文書）

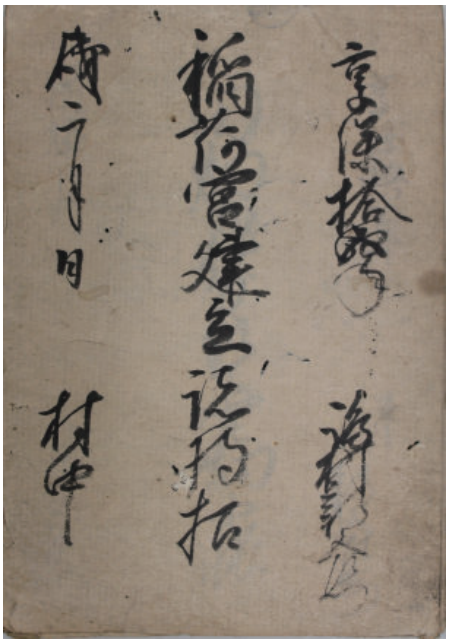


逆井百間中島村新田絵図　（岩崎家文書）

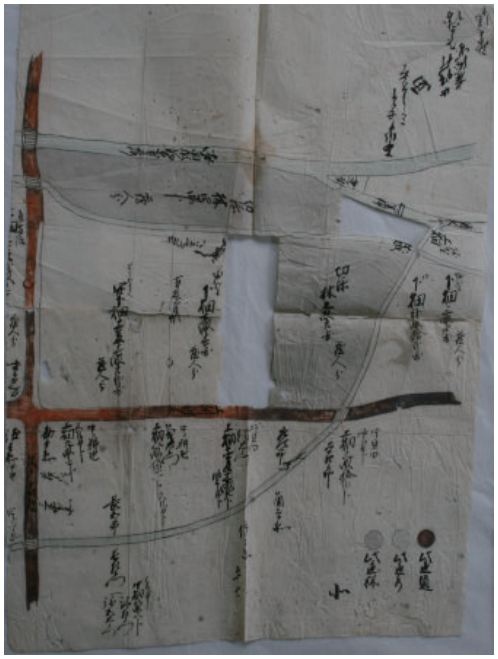
百間中島村の神社

百間中島村には道仏に稲荷神社、若宮に八幡神社がありました。稲荷神社は元和５年（1619）の検地帳や江戸時代初期の絵図にはありませんので、その後、建立されたものと推定されます。岩崎家文書に享保15年(1730)の「稲荷宮建立諸持控」がありますので、その頃までには建立されていたようです。また、宝暦５年（1755）には伏見稲荷大社の神官である羽倉摂津守から位階が授けられました。

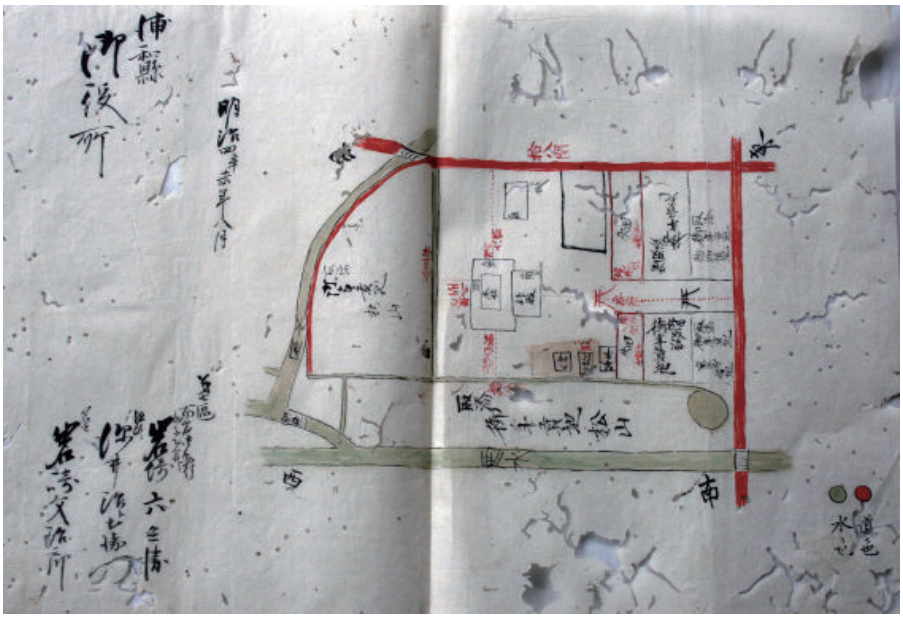
八幡神社は言い伝えによると高橋七郎兵衛が鎌倉鶴岡八幡宮のご神体を背負って八幡信仰を広め、若宮の地に住みつきました。七郎兵衛は農業をしながら地元で布教活動をしていましたが、次第に人家も多くなり、八幡信仰が広まったため、鶴岡八幡宮の分霊を勧請し若宮地区の氏神としたのが起源と言われています。



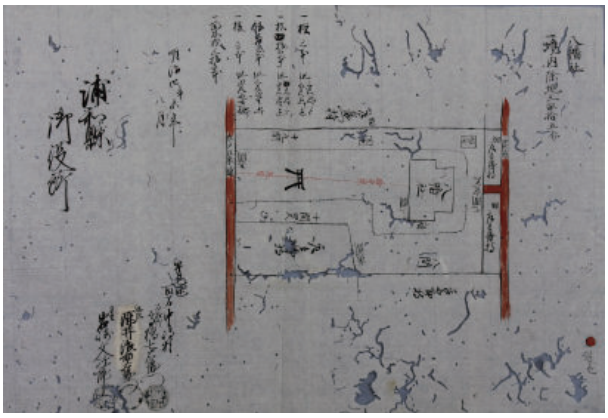
稲荷宮建立諸持控（岩崎家文書）



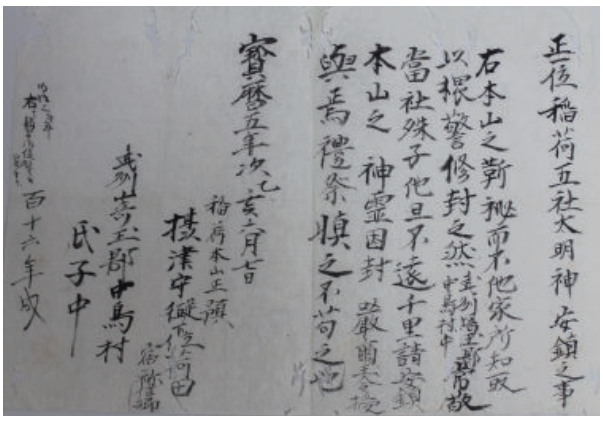
稲荷神社建立前の絵図（岩崎家文書）



稲荷神社絵図（岩崎家文書）



八幡神社絵図（岩崎家文書）



正一位稲荷五社大明神勧請状（岩崎家文書）

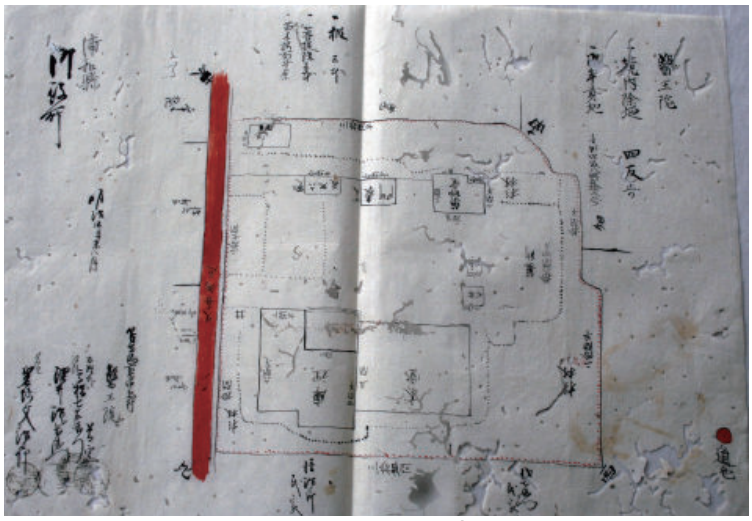
若宮八幡神社（平成９年）

道仏稲荷神社（平成９年）

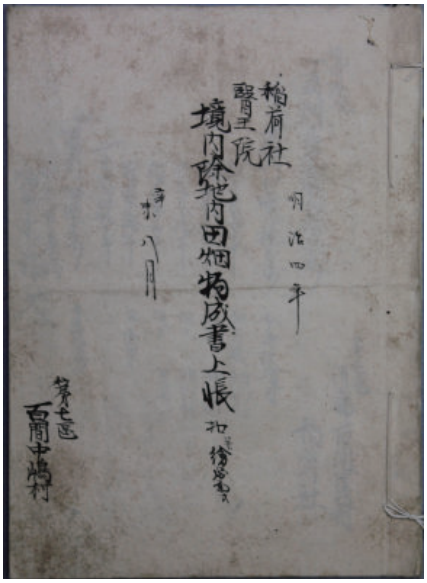
百間中島村の寺院

百間中島村には道仏に医王院と若宮に青蓮院がありました。元和５年（1619）の検地帳と関係のある文書に医王院は「宗祐寺」と、青蓮院は「堂免分」と記載されます。両寺とも元和５年以前に建立されていたものと推定されます。なお、『新編武蔵国風土記稿』には「宗祐寺」の「宗祐」は百間中島村を開発した島村出羽宗明の

法名であると記されています。一方、青蓮院は、元々観音堂であったものを、島村氏が寺としたとあり、元和の検地帳に「(観音) 堂免分」とあることから、それ以後に寺となったと推定されます。



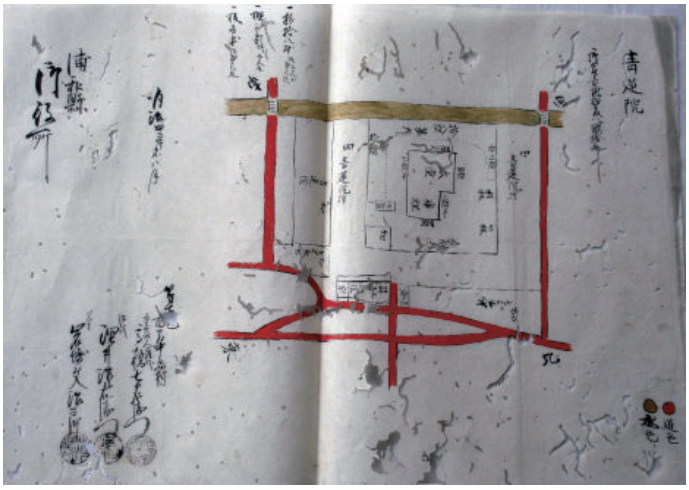
医王院絵図（岩崎家文書）



稲荷社医王院境内除地内田畑物成書上帳控（岩崎家文書）

医王院（平成 9 年）

医王院（平成 27 年）



青蓮院絵図（岩崎家文書）

青蓮院（平成 9 年）

明治以降の百間中島村

百間中島村は、明治維新になるといずれも大宮県（のち浦和県）第7区に属しました。この時の石高は379石余りで家数は80軒でした。そして、浦和県は岩槻県、忍県と合併し、明治4年（1871）11月14日、埼玉県が誕生します。その後、明治7年4月には蓮谷村と戸籍事務を統合し、明治8年6月には逆井百間中島村新田、笠原沼百間中島村新田を編入します。明治12年8月には百間村、百間西原組、百間金谷原組、百間中村、蓮谷村と戸籍事務を統合し青林寺に戸長役場を置きます。明治17年7月には百間6ヶ村に百間東村を加え百間中村連合戸長役場に属しました。

明治22年4月には百間7ヶ村は正式に合併し百間村となりました。当時の村役場は青林寺に置かれましたが、大正14年12月、百間小学校校門前の現在の公共施設駐車場に移転しました。

学校は、明治6年に西光院に進修学校（後の百間小学校）が開校しましたが、明治9年には宝生院に移転した百間学校（進修学校が改称）から独立し、道仏地区の医王院に道仏、若宮、中須、川島、柚ノ木、内野、松ノ木島を区域とした中島学校が開校しました。その後、中島学校は明治19年に百間小学校に吸収され、明治43年、宝生院から現在の百間小学校の場所に移転しています。

昭和30年7月20日、百間村と須賀村は合併し宮代町が誕生しました。

百間村絵図　百間中島村付近部分（岩崎家文書）

元和５年の屋敷一覧

百間中島村は多量に古文書が残っているため、元和５年（1619）の江戸時代初期の土地の状況などが分かります。そのため、元和５年の屋敷図などの復元が出来ました。そして、屋敷の持ち主の変遷も確認できます。百間中島村の名主家文書である岩崎家文書は、非常に珍しく貴重な文書であるため、宮代町の指定文化財に指定されています。

地区	姓	元和5年の屋敷持ち主	元和屋敷面積	享保14年の屋敷持ち主	享保屋敷面積	備考
道仏	島村	孫次郎	8畝歩	多郎左衛門	8畝歩	
	岩崎	縫殿助	8畝2歩	太郎右衛門	8畝2歩	
	押田	清蔵	5畝26歩	儀兵衛	5畝26歩	
				又七		
	岩崎	主水	9畝27歩	五右衛門	4畝28歩	
				庄右衛門	4畝28歩	
				角右衛門		
	石塚	勘解由	8畝12歩	次郎左衛門	8畝12歩	
	島村	蔵人	1反7畝16歩	佐兵衛	1反7畝16歩	西原
			1反8畝10歩	新五左衛門	1反2畝6歩	
				徳右衛門	6畝3歩	
			5反7畝歩	権三	1反8畝歩	西原新屋敷
				権三	6畝10歩	
				佐兵衛	5畝10歩	
				御用地	2反7畝10歩	
	岩崎	喜兵衛	1反2畝10歩	太右衛門	1反2畝10歩	
				吉右衛門		
	関根	与右衛門	9畝3歩	与兵衛	4畝17歩	
				権兵衛	4畝16歩	
	岩崎	助太郎	1反12歩	清次郎	6畝28歩	
				浅右衛門	3畝14歩	
	島村	助右衛門	2反1畝20歩	新五左衛門	7畝6歩	
				太郎左衛門		
				太右衛門	5畝22歩	
				安兵衛	5畝22歩	
				沖右衛門	3畝歩	
			2畝2歩	沖右衛門	2畝2歩	
	不明	隼人	2反28歩	貞右衛門	2反28歩	
	深井	源左衛門	1反1畝8歩	源六	6畝19歩	
				太郎左衛門	4畝18歩	
中須	吉田	又四郎	2畝21歩	利兵衛	2畝21歩	
				八兵衛		
	深井	助蔵	7畝14歩	安左衛門	2畝14歩	
				政右衛門	5畝歩	
	吉田	藤蔵	6畝14歩	安右衛門	3畝8歩	
				弥兵衛	3畝8歩	
				彦兵衛		
				七左衛門		
	深井	源左衛門	5畝26歩	市郎兵衛	5畝26歩	
若宮	羽鳥	新左衛門	2畝7歩	喜右衛門	2畝7歩	
	成田	助左衛門	2畝歩	与平次	1畝10歩	
				甚右衛門	20歩	
	岩崎	善六	6畝23歩	喜兵衛	6畝23歩	
	島村	喜七	4畝25歩	善兵衛	3畝14歩半	
				七右衛門	1畝10歩半	
	秋谷	又五郎	2畝14歩	善右衛門	21歩	
				清右衛門	21歩	
				又右衛門	1畝12歩	
	高橋	右近	3畝20歩	弥次兵衛	3畝20歩	
				八右衛門		

宅地番号	戸主	地区	歴代役職	元和5年屋敷持主	享保14年屋敷持主	先祖・子孫	屋敷面積（明治6年3月）	備考
1	稲荷社	道仏					1反7畝19歩	宝暦5年勧請
2	石塚重五郎	道仏						
3	島村惣助	道仏					7歩半	
4	川上又十郎	道仏	組頭		又七	又市、又右衛門	4町2畝22歩	新屋敷
5	島村太郎左衛門	道仏		清蔵			1反6畝21歩	
6	押田儀兵衛	道仏		清蔵	儀兵衛	清蔵	1反1畝19歩	
7	岩崎五右衛門	道仏		主水	五右衛門	主水	5畝8歩	
8	島村沖右衛門	道仏	名主代、組頭、副戸長	助右衛門	沖右衛門	助右衛門、瀬兵衛	5町5反6畝29歩	
9	亡所	道仏						
10	島村定五郎	道仏		助右衛門			9反1畝3歩	
11	島村岩次郎	道仏		助右衛門			6反7畝24歩半	
12	島村重右衛門	道仏		助右衛門			7反2畝7歩半	
13	岩崎文次郎	道仏	名主、名主代、組頭、戸長	喜兵衛	太右衛門	太左衛門、松之助、喜三郎、与一郎	5町4畝1歩	
14	岩崎浅右衛門	道仏		助太郎	浅右衛門		8畝4歩	
15	岩崎清次郎	道仏	組頭	助太郎	清次郎	助太郎	7反6畝24歩	
16	医王院	道仏				宗祐寺	1町4反8畝28歩	
17	島村文蔵	道仏					1反歩	
18	深井源六	道仏		源左衛門	源六		2町5反7畝4歩	
19	深井幸七	道仏		源左衛門	太郎左衛門		2反2歩	
20	亡所	道仏		源左衛門		島村兵左衛門	2畝29歩	島村重右衛門持
21	関根源七	道仏	組頭	与右衛門	与兵衛		2町2反7畝1歩	
22	島村惣右衛門	道仏	名主代、組頭	蔵人	徳右衛門	徳右衛門	2反3畝19歩半	
23	島村九郎兵衛	道仏	名主	蔵人	新五左衛門	宗明、蔵人、平兵衛、幾五郎、周蔵	6反1畝9歩半	
24	石塚吉平	道仏	名主	勘解由	次郎左衛門	佐兵衛	3反7畝13歩	
25	川上福次郎	道仏						
26	岩崎吉左衛門	道仏	名主代、組頭	縫之助	太郎右衛門	縫之助	2町2反4畝20歩	
27	島村徳兵衛	道仏					2反2畝27歩半	新屋敷
28	押田儀右衛門	道仏					6畝10歩	新屋敷
29	岩崎佐右衛門	道仏					2畝歩	新屋敷
30	石塚忠右衛門	道仏					3畝20歩	
31	岩崎太四郎	道仏					1反3畝22歩	新屋敷
32	亡所	道仏						
33	島村伝兵衛	道仏					9畝11歩	新屋敷
34	亡所	道仏						
35	岩崎長左衛門	道仏					7畝18歩	新屋敷
36	島村甚兵衛	道仏					1町3反5畝9歩	新屋敷
37	岩崎六兵衛	道仏					7反1畝7歩	
38	島村四郎兵衛	道仏		孫次郎	太郎左衛門		2町4反2畝24歩	屋敷移動、新屋敷
39	石塚勘兵衛	道仏					1反6畝21歩	
40	関根喜七	道仏					2畝歩	新屋敷
41	島村清蔵	中須					1反8畝13歩	新屋敷
42	尾勝長右衛門	中須					5畝10歩	新屋敷
43	深井治郎右衛門	中須	組頭、副戸長	源左衛門			7町5畝13歩半	
44	深井嘉右衛門	中須		源左衛門			24歩	
45	深井九左衛門	中須	名主代、組頭	源左衛門	市郎兵衛	九蔵、源左衛門	4反3畝4歩	
46	亡所	中須				島村七兵衛	4畝歩	深井治郎右衛門持
47	吉田安兵衛	中須		藤蔵	安右衛門	安兵衛	2畝15歩	
48	関根伊兵衛	中須		藤蔵			4畝29歩	
49	亡所	中須						
50	関根鶴松	中須				磯右衛門	5反1畝26歩	
51	吉田藤右衛門	中須					3畝歩	
52	亡所	中須				関根又四郎	2畝歩	
53	関根又兵衛	中須					3反8畝歩	新屋敷
54	深井治郎吉	中須					1反4畝24歩	新屋敷
55	吉田利右衛門	中須		又四郎	利兵衛		2反9畝11歩	
56	吉田直七	中須		又四郎			6畝7歩	
57	吉田松五郎	中須		又四郎			5反2畝12歩	
58	深井重五郎	中須		助蔵	安左衛門		2反2畝20歩	
59	深井政右衛門	中須		助蔵	政右衛門		3畝歩	
60	島村竹次郎	中須				安左衛門	6畝17歩	
61	石川三平	中須					1反1畝1歩	
62	高橋七平	若宮		右近	弥次兵衛	右近	1反1畝9歩	
63	秋谷安右衛門	若宮		右近	八右衛門		6歩	
64	秋谷又右衛門	若宮	組頭	又五郎	又右衛門	又五郎	5反4畝歩	
65	秋谷ゑせ	若宮		又五郎	兵右衛門	兵右衛門、七兵衛、長右衛門	5畝20歩	
66	秋谷兵蔵	若宮		又五郎	清右衛門		1反3畝1歩半	
67	島村善兵衛	若宮	組頭	喜七	善兵衛	喜七	2反4畝16歩	
68	高橋七右衛門	若宮	百姓代	喜七	七右衛門		2町9反14歩半	
69	岩崎喜兵衛	若宮	名主代、組頭	善六	喜兵衛	善六	2反6畝17歩	
70	富田久兵衛	若宮		善六	甚右衛門		1町2反3畝22歩	
71	成田よか	若宮		助左衛門	与平次	助左衛門	14歩	
72	秋谷浅右衛門	若宮		助左衛門			4畝45歩半	
73	岩崎文右衛門	若宮		助左衛門			6反1畝15歩半	
74	羽鳥彦八	若宮		新左衛門	七兵衛		1畝3歩	
75	羽鳥喜右衛門	若宮		新左衛門	嘉右衛門		9畝28歩	
76	関根福蔵	若宮					4反1畝5歩	新屋敷
77	高橋熊七	若宮				半兵衛、七郎兵衛	6反3畝29歩	新屋敷
78	関根庄右衛門	若宮	組頭、副戸長				2町4反7畝20歩	新屋敷
79	富田孫兵衛	若宮					1町2反1畝2歩	新屋敷
80	富田文四郎	若宮					3反7畝12歩	新屋敷
81	富田久右衛門	若宮					1町6反1畝28歩半	新屋敷
82	岩崎庄兵衛	若宮					6畝12歩	
83	関根吉五郎	若宮					3反5畝18歩半	
84	八幡社	若宮						
85	青蓮院廃跡	若宮					2反9畝19歩	
86	秋谷助五郎	若宮					2反2畝19歩	新屋敷
87	島村園右衛門	中嶋（川端）					7反7畝24歩	新屋敷
88	島村彦惣	中嶋（川端）					1畝3歩	新屋敷
89	亡所	西原				岩崎佐兵衛	1畝23歩	岩崎吉左衛門持
90	斎藤喜右衛門	西原					1畝1歩	新屋敷
91	杉山文吉	山崎					3反6畝5歩	新屋敷
92	吉井瀧蔵	道仏						医王院内

百間中島村宅地表

発行　宮代町郷土資料館
埼玉県南埼玉郡宮代町字西原289番地
TEL　0480－34－8882
FAX　0480－32－5601
http//www.town.miyashiro.saitama.jp